

平成20年度 音楽文化振興事業(いずみホール)

いずみホールは自主公演の開催等を通じてクラシック音楽文化の振興に寄与しています。平成20年度については総公演数が246公演のうち、主催公演は30公演であり、共催公演、普及事業という形での実施を含めた公演は44公演にのびりました。年間の入場者総数は128,786人となっています。また、平成2年度のオープン以来の入場者は255万人を超えました。

	公演数	入場者数
主催公演	30	16,963
共催公演	4	2,181
普及事業	10	4,013
貸館公演	202	105,629
合計	246	128,786

(貸館公演には受託4公演を含む)

平成20年度は、年間テーマとして「ベートーヴェン弦楽四重奏曲全曲演奏会(全8回)」を6月から11月に掛けて開催いたしました。これは平成15年度の「ピアノ・ソナタ全曲演奏会」、平成19年度の「交響曲全曲演奏会」に続くベートーヴェンの全曲演奏企画で、世界各地から8つの弦楽四重奏団が集まり、室内楽に最も適していると言われるいずみホールならではの企画として、各方面から高い評価を得ることができました。

また毎年春先に開催している、いずみホールオペラにおけるロッシーニ「ランスへの旅」や、2年目を迎えたドイツ・ライプツィヒのバッハ・アルフィーフの企画協力による「バッハ／オルガン作品連続演奏会」、日本の伝統芸能を多角的に捉える、今藤政太郎プロデュース「和の音を紡ぐ」などのホール独自の制作による企画も好評を博しました。

20年度の特筆事項としては、レジデント・オーケストラであるいずみシンフォニエッタ大阪の東京公演が挙げられます。通常年3回の定期演奏会に加え、7月に2回目の東京演奏会を紀尾井ホールにおいて開催し、各方面から非常に高い評価を得ることができました。

ほかにも17年目迎えた「ランチタイム・コンサート」。若い女性客をターゲットにした「MUSIC SUPPLEMENT」。夏休み子ども向け企画として定着してきた「子どもカレッジ」。平日の午前中を利用して新たな顧客層を掘り起こそうと企画した「音楽講座」など、多彩なラインアップで、地域への音楽文化の普及に努めています。

【年間公演一覧】

日程	区分	公演名
4/22	主催	日本のうた 第3回「童謡、この尊きもの」
4/26	普及	ベートーヴェン弦楽四重奏曲全曲演奏会レクチャー
5/5	普及	いずみホールで「こどもの日」【2回公演】
5/10	主催	岩田達宗プロデュース いずみホールオペラ「ランスへの旅」
5/29	主催	ラ・プティット・バンド
6/3	主催	ランチタイム・コンサート Vol.64 「想いをうたにのせて」
6/10	主催	ベートーヴェン弦楽四重奏曲全曲演奏会① パシフィカ・カルテット
6/23	主催	第13回チャイコフスキー国際コンクール優勝記念 神尾真由子
6/25	主催	ベートーヴェン弦楽四重奏曲全曲演奏会② アルティ弦楽四重奏団
6/26	共催	大阪フィルハーモニー交響楽団 いずみホール特別演奏会 I

7/3	主催	いずみシンフォニエッタ大阪 第19回定期演奏会
7/4	主催	いずみシンフォニエッタ大阪 東京演奏会(会場/紀尾井ホール)
7/17	主催	ベートーヴェン弦楽四重奏曲全曲演奏会③ ウィーン・ムジークフェライン弦楽四重奏団
7/30	主催	ベートーヴェン弦楽四重奏曲全曲演奏会④ 東京クワルテット
8/2	普及	いずみこどもカレッジ
9/6	共催	日本音楽財団35周年記念 ストラディヴァリウス・コンサート
9/18	普及	いずみホール音楽講座2008 第1回「パイプオルガン」
9/25	主催	ベートーヴェン弦楽四重奏曲全曲演奏会⑤ ロータス・カルテット
9/29	主催	ランチタイム・コンサートVol.65「空飛ぶ笛 ～リコーダーの調べ～」
10/2	主催	バッハ・オルガン作品連続演奏会 vol.3「導きのコラール」
10/4	主催	ベートーヴェン弦楽四重奏曲全曲演奏会⑥ ハーゲン弦楽四重奏団
10/19	普及	住友生命未来を築く子育てプロジェクト「トーク&コンサート」【2回公演】
10/31	主催	ベートーヴェン弦楽四重奏曲全曲演奏会⑦ モザイク・カルテット
11/6	普及	いずみホール音楽講座2008 第2回「三味線音楽」
11/13	主催	いずみシンフォニエッタ大阪 第20回定期演奏会
11/19	共催	グランプリ・コンサート2008
11/27	共催	大阪フィルハーモニー交響楽団 いずみホール特別演奏会Ⅱ
11/29	主催	ベートーヴェン弦楽四重奏曲全曲演奏会⑧ ゲヴァントハウス弦楽四重奏団
12/1	主催	ランチタイム・コンサートVol.66「チェロ四重奏の楽しみ」
12/2	主催	パトリツィア・コパチンスカヤ&ファジル・サイ
12/5	主催	エマニュエル・パユ&トレヴァー・ピノック
12/20	主催	クリスマス・コンサート2008
1/9	主催	ニューイヤー・コンサート2009 ウィーン・リング・アンサンブル
1/16	主催	庄司紗矢香
1/19	普及	いずみホール音楽講座2008 第3回「現代音楽」
1/31	主催	日本の響き 和の音を紡ぐ第三回
2/5	主催	いずみシンフォニエッタ大阪 第21回定期演奏会
2/14	主催	バッハ・オルガン作品連続演奏会 vol.4
2/25	主催	藤村実穂子リサイタル
3/9	主催	ランチタイム・コンサートVol.67「中国琵琶の魅力」
3/27	主催	MUSIC SUPPLEMENT KOBUDO -古武道-

公演の詳細は次の通りです。

ベートーヴェン弦楽四重奏曲全曲演奏会

協賛:三洋電機、塩野義製薬、竹中工務店

助成:平成20年度文化庁芸術拠点形成事業

公演日	公演名・主な出演者、演奏曲目、コメント	入場者数
6/10 (火)	ベートーヴェン弦楽四重奏曲全曲演奏会① 出演/パシフィカ・カルテット 曲目/ベートーヴェン:弦楽四重奏曲 第2番 ト長調 op.18-2「挨拶」 リゲティ:弦楽四重奏曲 第1番「夜の変容」 ベートーヴェン:弦楽四重奏曲 第7番 ヘ長調 op.59-1 「ラズモフスキー第1番」	396名
	アメリカの若手カルテットの演奏でシリーズをスタート。日本では無名のグループであったが、予想を超える鋭気に満ちた熱演を披露した。	
6/25 (水)	ベートーヴェン弦楽四重奏曲全曲演奏会② 出演/京都アルティ弦楽四重奏団 曲目/ベートーヴェン:弦楽四重奏曲 第5番 イ長調 op.18-5 武満 徹:ア・ウェイ・ア・ローン ベートーヴェン:弦楽四重奏曲 第9番 ハ長調 op.59-3 「ラズモフスキー第3番」	484名
	京都府立府民ホール アルティのレジデンスカルテットの登場。日本を代表する4人のソリストたちによる演奏は、個々の技量もさることながら、まとまった音楽の方向性を示す名演であった。	
7/17 (木)	ベートーヴェン弦楽四重奏曲全曲演奏会③ 出演/ウィーン・ムジークフェライン弦楽四重奏団 曲目/ベートーヴェン:弦楽四重奏曲 第1番 ヘ長調 op.18-1 コダーイ:弦楽四重奏曲 第2番 op.10 ベートーヴェン:弦楽四重奏曲 第12番 変ホ長調 op.127	647名
	世界的な人気を誇る、ウィーン・フィルの首席奏者たちによるグループの登場。伝統に培われた演奏は堂々たる風格を示したものであった。	
7/30 (水)	ベートーヴェン弦楽四重奏曲全曲演奏会④ 出演/東京クワルテット 曲目/ベートーヴェン:弦楽四重奏曲 第10番 変ホ長調 op.74「ハープ」 ハイドン:弦楽四重奏曲 第75番 ト長調 op.76-1,Hob.III-75 ベートーヴェン:弦楽四重奏曲 第16番 ヘ長調 op.135	560名
	結成40年を迎えたベテランの登場。長年に亘る経験によって鍛えられた緻密なアンサンブルで聴衆を魅了した。	
9/25 (木)	ベートーヴェン弦楽四重奏曲全曲演奏会⑤ 出演/ロータス・カルテット 曲目/ベートーヴェン:弦楽四重奏曲 第3番 ニ長調 op.18-3 ウェーベルン:弦楽四重奏曲(1905)/6つのバガテル ベートーヴェン:弦楽四重奏曲 第15番 イ短調 op.132	484名
	いずみホールで開催された大阪室内楽国際コンクールでデビューし、ドイツで研鑽を重ねてきた日本を代表する中堅カルテットの登場。堅実な演奏でアンサンブルの妙を感じさせた。	

10/4 (土)	<p>ベートーヴェン弦楽四重奏曲全曲演奏会⑥ 出演／ハーゲン弦楽四重奏団 曲目／ベートーヴェン:弦楽四重奏曲 第11番 ヘ短調 op.95「セリオーン」 ドビュッシー:弦楽四重奏曲 ベートーヴェン:弦楽四重奏曲 第14番 嬰ハ短調 op.131</p>	766名
	<p>今や人気・実力共に世界一といっても過言ではないハーゲン弦楽四重奏団。その演奏内容の濃さ、深さは紛うことない世界トップの演奏であった。</p>	
10/31 (金)	<p>ベートーヴェン弦楽四重奏曲全曲演奏会⑦ 出演／モザイク・カルテット 曲目／J.S.バッハ:フーガの技法 BWV1080 より I、V、VI、IX ベートーヴェン:弦楽四重奏曲 第4番 ハ短調 op.18-4 ベートーヴェン:弦楽四重奏曲 第8番 ホ短調 op.59-2 「ラズモフスキー第2番」</p>	531名
	<p>楽器グループとして名高いモザイク・カルテット。いずみホールへは3回目の登場。ホールの音響とマッチした豊穡な響きは、このグループが円熟期を迎えていることを証明するかのような演奏であった。</p>	
11/29 (土)	<p>ベートーヴェン弦楽四重奏曲全曲演奏会⑧ 出演／ゲヴァントハウス弦楽四重奏団 曲目／ベートーヴェン:弦楽四重奏曲 第6番 変ロ長調 op.18-6 ベートーヴェン:大フーガ 変ロ長調 op.133 ベートーヴェン:弦楽四重奏曲 第13番 変ロ長調 op.130</p>	600名
	<p>結成200年を迎えた世界最古の弦楽四重奏団。長い歴史と伝統に支えられた演奏は、シリーズの最終回に相応しい「これぞベートーヴェンだ」という品格に満ちたものであった。</p>	

【京都アルティ弦楽四重奏団】



【ハーゲン弦楽四重奏団】



新・音楽の未来への旅シリーズ

協賛: きんでん、トランスコスモス、NTT 西日本

助成: 平成20年度文化庁芸術拠点形成事業、ローム ミュージック ファンデーション

公演日	公演名・主な出演者、演奏曲目、コメント	入場者数
7/3 (木)	<p>いずみシンフォニエッタ大阪 第19回定期演奏会 出演/飯森範親(指揮)、安藤史子(フルート)、大島弥州夫(オーボエ) 高橋知己(クラリネット)、東口泰之(ファゴット)、内田奈織(ハープ) 曲目/アダムス:室内交響曲 ヒンデミット:木管、ハープと管弦楽のための協奏曲 伊福部昭:土俗的三連画 西村 朗:室内交響曲 第2番「コンチェルトンテ」</p>	516名
	<p>1管編成というオリジナルの編成にこだわったプログラムを組み、シンフォニエッタサイズの作品の楽しさを存分に味わえる公演であった。なお、本公演はNHK-BSの収録があり、後日放映された。</p>	
7/4 (金)	<p>いずみシンフォニエッタ大阪 東京演奏会 会場/紀尾井ホール ※出演者と曲目は前日の大阪公演と同じ。</p>	428名
	<p>2年ぶりの東京公演。東京に乗り込んでの公演にメンバーの集中力も素晴らしく高まり、充実した演奏会となった。</p>	
11/13 (木)	<p>いずみシンフォニエッタ大阪 第20回定期演奏会 出演/飯森範親(指揮) 曲目/川島素晴:シンフォニア「ドナウ」 クルターク:幻想曲風に op.27 カプースチン:11人の奏者のための協奏曲 op.90【世界初演】 ニクレスク:ISON I【日本初演】 シェーンベルク:室内交響曲 第1番 op.9</p>	305名
	<p>ザ・フェニックスホールとの連携企画で「ドナウ河流域」をテーマに旧東欧圏の現代作品を取り上げた。珍しい楽器ツインバロンなども入った作品もあり、バラエティに富んだ演奏会であった。本公演はNHK-FMの収録があり、後日放送された。</p>	
2/5 (木)	<p>いずみシンフォニエッタ大阪 第21回定期演奏会 出演/下野竜也(客演指揮) 曲目/ホルスト:セント・ポール組曲 アデス:Living Toys タネジ:On All Fours【日本初演】 藤倉 大:Secret Forest ブリテン:シンフォニエッタ op.1</p>	355名
	<p>イギリスの近・現代作品を取り上げたプログラム。また、紀尾井ホール(東京)との作曲共同委嘱プロジェクトの新作として、ロンドンを拠点に活躍する若手作曲家・藤倉大氏の作品を取り上げた。従来のクラシック音楽とは一線を画した作品ばかりで、現代作品の新たな面白さが発見できた。なお、翌3月、藤倉氏のSecret Forestは邦人作曲家による優れたオーケストラ作品を顕彰する作曲賞、第57回「尾高賞」を見事受賞した。</p>	

いずみホール・オペラ

協賛: 関西電力

助成: 平成20年度文化庁芸術拠点形成事業、三菱 UFJ 信託芸術文化財団

公演日	公演名・主な出演者、演奏曲目、コメント	入場者数
5/10 (土)	岩田達宗プロデュース いずみホールオペラ「ランスへの旅」 演出／岩田達宗、指揮／佐藤正浩 出演／佐藤美枝子、福原寿美枝、尾崎比佐子、石橋栄実、清水徹太郎 松本薫平、井原秀人、久保田真澄、折江忠道、牧野正人、萩原寛明 松岡重親、老田裕子、福島紀子、櫻井裕子、清原邦仁、萩原次己 ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団 曲目／ロシーニ:オペラ「ランスへの旅」	720名
	17人のソリスト達がホールに集結。まさに顔見世興行と言うべき豪華なオペラが展開された。各方面から絶賛を受けた公演。	

【いずみホールオペラ「ランスへの旅」】



ランチタイム・コンサート

協賛:JTB 西日本

公演日	公演名・主な出演者、演奏曲目、コメント	入場者数
6/3 (火)	ランチタイム・コンサート Vol.64 「想いをうたにのせて」 出演／幸田浩子(ソプラノ)、鈴木真理子(ピアノ) 曲目／モーツァルト:《魔笛》より「復讐の炎は地獄のように我が心に燃え」 マスネ:アヴェ・マリア 山田耕筰:「この道」「唄」「ばらの花に心をこめて」 ほか	752名
	大阪出身でいま注目のソプラノ歌手・幸田浩子がいずみホールに初登場。 その美貌と美声で聴衆を釘付けにした。	
9/29 (月)	ランチタイム・コンサート Vol.65 「空飛ぶ笛 ～リコーダーの調べ～」 出演／江崎浩司(リコーダー)、長久真実子(チェンバロ) 曲目／J.S.バッハ:G線上のアリア／クーペラン:愛のうぐいす モーツァルト:トルコ行進曲／モンティ:チャルダッシュ ベートーヴェン:エリーゼのためにタンゴ風 サティ:本日休演、グノシエンヌ第5番 ほか	714名
	バロック・オーボエと様々なリコーダーを駆使しての演奏は江崎氏の楽しい パフォーマンスもあり、終始楽しいコンサートとなった。	
12/1 (月)	ランチタイム・コンサート Vol.66 「チェロ四重奏の楽しみ」 出演／林 裕、金子鈴太郎、西谷牧人、上森祥平(チェロ) 曲目／ブラームス:間奏曲 op.117-1 映画音楽メドレー ライムライト～シャレード～二人でお茶を～シェルブールの雨傘 チャイコフスキー:「くるみ割り人形」組曲 ほか	749名
	若手から中堅のチェリスト4人によるアンサンブルは、個々のレベルの高さも さることながら、アンサンブルの緻密さと、4人の楽しんでいる姿が如実に現 れる好演であった。	
3/9 (月)	ランチタイム・コンサート Vol.67 「中国琵琶の魅力」 出演／閻杰(中国琵琶)、宮川真由美(ピアノ) 曲目／瑶族舞曲(瑶族民謡)、閻杰:龍、多 忠亮:宵待草 シューベルト:セレナーデ、葬族舞曲(葬族民謡) 閻杰:シルクロード幻影、ピアソラ:リベルタンゴ ほか	630名
	さすがに中国琵琶の第一人者というべき名演。オリジナルの作品から、クラ シックやタンゴのアレンジ作品まで、そのレパートリーの幅広さと琵琶の魅力 を存分に伝えることができた演奏会であった。	

【幸田浩子】



その他公演

公演日	公演名・主な出演者、演奏曲目、コメント	入場者数
4/22 (火)	日本のうた 第3回「童謡、この尊きもの」 助成:平成20年度文化庁芸術拠点形成事業 出演/松田昌恵(ソプラノ)、畑 儀文(テノール)、花岡千春(ピアノ) 磯山 雅(司会) 曲目/「かなりや」「叱られて」「十五夜お月さん」「七つの子」 「月の沙漠」「兎のダンス」「証城寺の狸囃子」「汽車ぼっぼ」 「うれしいひなまつり」「赤蜻蛉」「からたちの花」 ほか	428名
	シリーズ3回目は子どもからお年寄りまで楽しめる「童謡」をテーマに開催。現代の童謡作品を委嘱するという意欲的な公演であった。	
5/29 (木)	ラ・プティット・バンド 出演/ラ・プティット・バンド 曲目/J.S.バッハ:管弦楽組曲 第3番 ニ長調、BWV1068(弦楽合奏版) A.ヴィヴァルディ:ピッコロ協奏曲 ハ長調、RV444 ヴァイオリン協奏曲集「四季」 ほか	468名
	世界の古楽界をリードするシギスヴァルト・クイケンが率いる最高のバロック・アンサンブル。これまでより小さな編成での演奏であったが、緻密かつ流麗な音楽を聴かせた。	
6/23 (月)	第13回チャイコフスキー国際コンクール優勝記念 神尾真由子 出演/神尾真由子(ヴァイオリン)、ロハン・デ・シルヴァ(ピアノ) 曲目/モーツァルト:ヴァイオリン・ソナタ 第28番 ホ短調 K.304 プーランク:ヴァイオリン・ソナタ チャイコフスキー:瞑想曲、ワルツ・スケルツォ フランク:ヴァイオリン・ソナタ イ長調	785名
	2007年のチャイコフスキー国際コンクール優勝の神尾さんの凱旋公演。若々しくエネルギッシュな演奏で、観客を感動の渦に巻き込んだ。	
10/2 (木)	バッハ・オルガン作品連続演奏会 vol.3「導きのコラール」 助成:平成20年度文化庁芸術拠点形成事業 出演/ミヒャエル・ラドゥレスク(オルガン)、磯山 雅(お話) 曲目/【オール・バッハ・プログラム】 プレリュードとフーガ ロ短調 BWV544 《クラヴィーア練習曲集 第3部》より 6つの教理問答コラール パッサカリア ハ短調 BWV582	498名
	バッハ演奏のスペシャリストであり、世界のオルガン奏者の重鎮のひとりであるラドゥレスク氏が登場。彼のライフワークの一環とも言えるプログラムで、バッハのオルガン音楽の奥深さを示す一夜となった。NHK-BS によるテレビ収録があり、後日放映された。	
12/2 (火)	パトリツィア・コパチンスカヤ&ファジル・サイ 協賛:ミキモトグループ、助成:平成20年度文化庁芸術拠点形成事業 出演/岩村 力(指揮)、大阪センチュリー交響楽団 曲目/プロコフィエフ:交響曲 第1番 ニ長調「古典的交響曲」 モーツァルト:ピアノ協奏曲 第21番 ハ長調 K.467 チャイコフスキー:ヴァイオリン協奏曲 ニ長調 op.35	528名
	鬼才ファジル・サイと天才コパチンスカヤの2人による演奏は、それぞれの作品演奏の概念を覆すほどのものであり、聴衆の度肝を抜く熱演が繰り広げられた。	

【パトリツィア・コパチンスカヤ】

【ウィーン・リング・アンサンブル】



<p>12/5 (金)</p>	<p>エマニュエル・パユ&トレヴァー・ピノック 出演/エマニュエル・パユ(フルート)、トレヴァー・ピノック(チェンバロ) ジョナサン・マンソン(チェロ) 曲目/J.S.バッハ: フルード・ソナタ ホ短調 BWV1034、ロ短調 BWV1030 変ホ長調 BWV1031、ホ長調 BWV1035 ほか</p> <p>トレヴァー・ピノック氏が来日直前に手術を受け、ドクター・ストップがかかったため止む無く公演中止とした。なお、来年度以降に改めて開催することで調整中。</p>	<p>公演中止</p>
<p>12/20 (土)</p>	<p>クリスマス・コンサート2008 助成:平成20年度文化庁芸術拠点形成事業 出演/堀 俊輔(指揮)、岡部まり(司会)、片桐聖子(パイプオルガン) 持丸秀一郎(クラリネット)、大阪センチュリー交響楽団 曲目/J.シュトラウスⅡ世:美しく青きドナウ ヘンリー・マンシー:ムーン・リバー 伊福部昭:「ゴジラ」テーマ アンドリュー・ロイド＝ウェバー:「オペラ座の怪人」 ほか</p> <p>映画で使われたクラシック音楽と映画のために作曲された作品を取り上げ、楽しいお話を交えながら進行。理屈ぬきに楽しめた2時間であった。</p>	<p>748名</p>
<p>1/9 (金)</p>	<p>ニューイヤー・コンサート2009 協賛:総合警備保障</p> <p>出演/ウィーン・リング・アンサンブル 曲目/レハール:オペレッタ「メリー・ウイドウ」より“マキシムへ行こう” J.シュトラウスⅡ世:「こうもり」序曲、ワルツ「加速度」 ポルカ・シュネル「観光列車」 ほか</p> <p>恒例のウィーン・フィルのトップメンバーによるニューイヤー・コンサート。今回も優雅で豪華な音楽に酔いしれるひとときであった。</p>	<p>728名</p>
<p>1/16 (金)</p>	<p>庄司紗矢香 出演/庄司紗矢香(ヴァイオリン)、イタマール・ゴラン(ピアノ) 曲目/シューベルト:ヴァイオリン・ソナティナ 第3番 ト短調 ブロッフ:ヴァイオリン・ソナタ 第1番 メシアン:主題と変奏 ブラームス:ヴァイオリン・ソナタ 第2番 op.100</p> <p>今、最も将来が期待されるヴァイオリニストのひとりである庄司さんのリサイタル。若手にもかかわらず、その音楽に対する造詣の深さと確かな実力を確かめることができた。</p>	<p>780名</p>

<p>1/31 (土)</p>	<p>日本の響き 和の音を紡ぐ第三回 助成:平成20年度文化庁芸術拠点形成事業 出演/東音 宮田哲男、今藤政貴、今藤長一郎、今藤政之祐、杵家弥佑 今藤龍之右、今藤政子、中川 綾(唄) 今藤政太郎、今藤美治郎、杵屋栄八郎、今藤長三朗、今藤政十郎 松永忠一郎、清元栄吉(三味線)、米川敏子、中川敏裕(箏) 藤舎名生(笛)、藤舎呂悦、藤舎華鳳、藤舎清鷹、藤舎悦芳(囃子) 曲目/今藤政貴、清元栄吉、今藤政太郎、杵屋巳太郎、松永忠一郎 作曲 「ぼくが作曲できない理由」 今藤政太郎 「天の鼓」 四世杵屋六三郎 長唄「勸進帳」</p> <p>8年間継続してきた長唄シリーズの最終回。今回も古典曲の演奏の凄さが際立っていたが、今藤作品「天の鼓」は聴衆を恍惚の世界へ誘うかのような不思議な作品で、創作邦楽の面白さを垣間見ることができた。</p>	<p>481名</p>
<p>2/14 (土)</p>	<p>バッハ・オルガン作品連続演奏会 vol.4 出演/アルヴィート・ガスト(オルガン)、礒山雅(お話) 曲目/D.ブクステフーデ:トッカータ ニ短調 BuxWV155 G.ベーム:《天にましますわれ我らの父よ》 N.ブルーンズ:プレリュード ホ短調 J.S.バッハ:トッカータ ニ短調 「ドリア調」BWV538 ほか</p> <p>リューベックのオルガニスト・アルヴィート・ガスト氏が登場。曲目はバッハにこだわらず、リューベック(北ドイツ)の作曲家の作品を紹介した。バッハ以外の作品を紹介することにより、バッハのルーツや作品の素晴らしさをより伝えることができた。</p>	<p>661名</p>
<p>2/25 (水)</p>	<p>藤村実穂子リサイタル 出演/藤村実穂子(メゾ・ソプラノ)、ロジャー・ヴィニョールズ(ピアノ) 曲目/シューベルト:泉に寄せて D530、春に D882 ワーグナー:《ヴェーゼンドンク歌曲集》 R.シュトラウス:私の想いのすべて op.21-1、君は心の冠 op.21-2 マラー:《5つのリュッケルトの歌》 ほか</p> <p>オペラでの活躍を中心に評価の高い歌手であったが、歌曲演奏においても新境地を拓いたと言うべき名演。ピアノのロジャー・ヴィニョールズのサポートも素晴らしかった。</p>	<p>466名</p>
<p>3/27 (金)</p>	<p>MUSIC SUPPLEMENT 協賛:ローゼン</p> <p>出演/KOBUDO -古武道- 古川展生(チェロ)、妹尾 武(ピアノ)、藤原道山(尺八)</p> <p>クラシックの古川、ジャズの妹尾、邦楽の藤原道山という3人による演奏は、それぞれの型を超えた彼ら独特のスタイルを確立しており、まさに「アコースティック・ライブ」と呼ぶに相応しい、楽しい演奏会となった。</p>	<p>755名</p>

普及事業

公演日	公演名・主な出演者、演奏曲目、コメント	入場者数
4/26 (土)	ベートーヴェン弦楽四重奏曲全曲演奏会レクチャー 助成:平成20年度文化庁芸術拠点形成事業 講師/土田英三郎、磯山 雅、上村 昇/ 出演/クアルテット・アルモニコ 内容/ベートーヴェンの弦楽四重奏について 年間テーマである「ベートーヴェン弦楽四重奏曲全曲演奏会」を聴くにあたって、より作品への理解を深めていただくために開催。クアルテット・アルモニコの演奏も素晴らしく、充実したイベントとなった。	427名
5/5 (月・祝) 2回公演	いずみホールで「こどもの日」 助成:平成20年度文化庁芸術拠点形成事業 出演/大阪市音楽団、和 ZOKU(和太鼓) 岩佐智子、早野紗矢香(パイプオルガン) 内容/和太鼓でお出迎え!(ロビー)、和太鼓をたたこう!(ロビー) 吹奏楽を聴こう!(ホール)、パイプオルガンってなあに!? ホールを一日開放して、自由に楽しんでいただこうという目的で開催した新企画。和太鼓を叩いてみたり、パイプオルガンを弾いてみたりと、聴衆参加型イベントとして新機軸を見せることができた。	1回目 778名 2回目 375名
8/2 (土)	いずみこどもカレッジ 助成:平成20年度文化庁芸術拠点形成事業 出演/大阪市音楽団 内容/ラテン打楽器奏者クツノユキヒデ氏によるワークショップ。 コンサートは、大阪市音楽団の演奏。コンサート最後に、ワークショップに参加の子供達と大阪市音楽団の共演で「コパカバーナ」を演奏。 小学生を対象としたワークショップは、講師の進め方が素晴らしかったこともあり、子どもたちも楽しく学び遊べる2時間であった。大阪市音楽団との共演も大成功。記憶に残る公演内容であった。	487名
9/18 (木) 11/6 (木) 1/19 (月)	いずみホール音楽講座2008(全3回) 助成:平成20年度文化庁芸術拠点形成事業 内容/今年度の3回は「楽譜」をテーマとして、様々な音楽ジャンルで使われている楽譜を中心に講座を組む。各回定員100名。 第1回「パイプオルガン」 講師・演奏/土橋 薫 第2回「三味線音楽」 講師・演奏/今藤長龍郎 演奏/今藤長一郎、今藤政十郎、今藤龍之右 第3回「現代音楽」 講師・演奏/川島素晴 演奏/COTO-PRESENT ステージ上に椅子を並べ、講師を囲む形式で開催。各回それぞれに難しい内容をわかりやすく解説し、実演を交えながら進行。お客様も存分に楽しまれた様子であった。	第1回 98名 第2回 60名 第3回 76名
10/19 (日) 2回公演	住友生命未来を築く子育てプロジェクト「トーク&コンサート」 出演/三船優子(ピアノ)/水野真紀(お話) 内容/音楽とお話でつむぐ「シンデレラ」と出演者による子育てにまつわるトーク・コーナー。 子育てについて考えてみようという主旨で開催したコンサート。若いご夫婦が中心でお子様連れの来場者が多く、1時間という短いプログラムであったが、これが功を奏し、皆さん満足そうであった。	午前の部 519名 午後の部 513名

共催公演

公演日	公演名・主な出演者、演奏曲目、コメント	入場者数
6/26 (木)	<p>大阪フィルハーモニー交響楽団 いずみホール特別演奏会 I ～華麗なる弦楽の響き～ 魂への『祈り』</p> <p>出演／下野竜也(指揮)、長原幸太(ヴァイオリン)</p> <p>曲目／ペンデレツキ:広島犠牲者への哀歌 J.S.バッハ:管弦楽組曲 第3番 ニ長調 より 第2曲「エール」 ハルトマン:葬送協奏曲「反ファシズム」 シェーンベルク:浄夜 op.4</p>	550名
	<p>大阪フィルハーモニー交響楽団との共催で贈るオーケストラ公演。今回は首席コンサートマスターの長原幸太のソロで、めったに演奏されない難曲に挑戦。見事な出来栄であった。</p>	
9/6 (土)	<p>日本音楽財団35周年記念 ストラディヴァリウス・コンサート</p> <p>出演／V.ハグナー、S.ハチャトゥリアン、E.シューマン、庄司紗矢香 V.スクリデ、竹澤恭子、A.シュタインバッハー、M.ヤンケ(以上ヴァイオリン) 石坂団十郎、S.イッサーリス(以上チェロ)、東京クワルテット ほか</p> <p>曲目／ヴィヴァルディ:4つのヴァイオリンとチェロのための協奏曲 ロ短調 ドビュッシー:弦楽四重奏曲 第1番 第三楽章 J.S.バッハ:2つのヴァイオリンのための協奏曲 ニ短調 BWV1043 メンデルスゾーン:弦楽八重奏曲 変ホ長調 op.20 ほか</p>	755名
	<p>弦楽器の名器ストラディヴァリウスなどを多数保有し、優秀な演奏家に無償貸与するという事業を続けている日本音楽財団の記念公演。全ての楽器がストラディヴァリウスという演奏は、普段聴くことのできない豪華さで、聴衆を魅了した。</p>	
11/19 (水)	<p>グランプリ・コンサート2008</p> <p>出演／ドーリック弦楽四重奏団</p> <p>曲目／ハイドン:弦楽四重奏曲 第44番 変ロ長調 op.50-1 W.ウォルトン:弦楽四重奏曲 イ短調 ブラームス:弦楽四重奏曲 第1番 ハ短調 op.51-1</p>	422名
	<p>3年に1回、いずみホールを会場として開催している日本室内楽国際コンクールの優勝者による演奏会。読売テレビとの共催で毎年開催している。今回は2008年5月に開催されたコンクールの第一部門(弦楽四重奏)優勝のドーリック弦楽四重奏団(イギリス)が登場。</p>	
11/27 (木)	<p>大阪フィルハーモニー交響楽団 いずみホール特別演奏会 II ～バロックの極致『フーガの技法』～</p> <p>出演／ヘルムート・ヴィンシャーマン(指揮)</p> <p>曲目／J.S.バッハ:音楽の捧げ物 BWV1079 フーガの技法 BWV1080</p>	454名
	<p>大阪フィルハーモニー交響楽団との共催で贈るオーケストラ公演。第2回目はバッハの権威ヴィンシャーマンを迎えての大阪フィルにしては珍しいバッハ作品を演奏。緻密なアンサンブル力を示す名演であった。</p>	